

伊東史朗監修／MIHO MUSEUM編

猿楽と面

大和・近江
および白山の周辺から

▶ B5判・402頁

本体：定価 3,200円

ISBN: 978-4-7842-1936-0

【2018年3月刊行】

平安後期から鎌倉時代の古面に始まり、南北朝から室町、安土桃山時代の大成期にわたる三五〇点（うち重要文化財八〇点）の「面」をカラーで掲載、さらに約五〇〇点の面の表／裏を一堂に収録するMIHO MUSEUMで開催する同名の展覧会の図録。
興福寺や春日大社などに猿楽を奉仕した大和四座の本拠地大和、世阿弥の『風姿花伝』や『申楽談義』に大和猿楽に並ぶ勢力として登場し、延暦寺や日吉大社などに猿楽を奉仕した近江、そして霊峰白山の参拝口である加賀馬場、越前馬場、美濃馬場の祭礼に使われた面などを幅広く収集し、中世の人々が熱狂した猿楽（能楽の古称）の世界を紐解く。

猿楽と面

大和・近江および白山の周辺から
Sengoku Masks Shaping the Culture of Noh



◇目次◇

猿楽とその面（伊東史朗）

第一章

猿楽の源流（解説：桑原康郎）

コラム1 伎楽面・舞楽面（伊東史朗）

コラム2 田楽・猿楽・延年の成立と展開（植木行宣）

第二章

猿楽と面——大和（解説：桑原康郎）

コラム3 檜垣本猿楽（池田淳）

コラム4 猿楽と鬼面（松岡心平）

コラム5 翁面とおそろし殿（宮本圭造）

第三章

猿楽と面——近江（解説：高梨純次）

コラム6 近江と猿楽——室町時代の近江をみる（高梨純次）

コラム7 猿楽とその鼓胴（桑原康郎）

第四章

猿楽と面——白山周辺（解説：村上尚子）

コラム8 中世越前の猿楽と面（戸田浩之）

コラム9 岐阜県内の能面について（南本有紀）

第五章

面打——井関家（解説：高梨純次）

第六章

狂言（解説：桑原康郎）

関連資料 参考図版／銘文／面の種類

出品リスト 収載面一覧／主な所蔵者とその面

●展覧会情報●

MIHO MUSEUM 二〇一八年春期特別展

「猿楽と面——大和・近江および白山の周辺から」

二〇一八年三月一〇日（土）～六月三日（日）

午前一〇時～午後五時（入館は午後四時まで）

休館日：月曜／入館料：一、〇〇円

思文閣出版

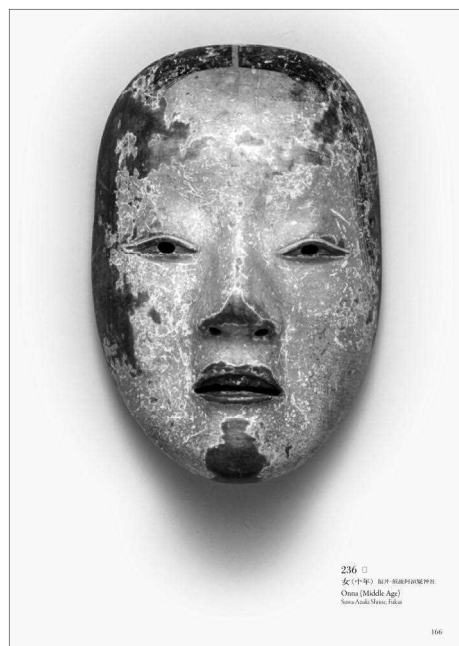
〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

（京都 取引コード 3402）

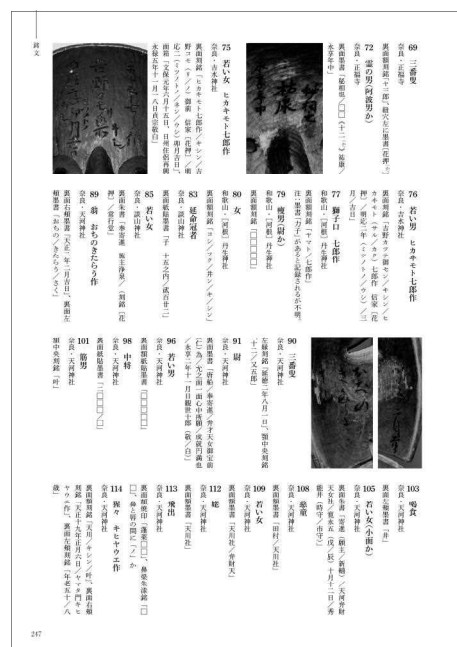
注 文 票		発 行 : 思 文 閣 出 版		(京 都 取 引 コ ー ド 3402)	
冊 数	冊	猿楽と面 大和・近江および白山の周辺から 本体3,200円 (税別) ISBN978-4-7842-1936-0			
お 名 前			tel		本書HPのQRコード
			e-mail		
ご 住 所	〒				
送本方法	代引 (書籍代+消費税+送料600円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担)				
	◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				



●本文組見本●
約32%縮小

平安後期の古面から安土桃山時代の大成期にわたる350点の面および猿楽関連の資料をカラー掲載！

収載面一覧（左）には、今回調査・入手した約500点の面の面・裏を一挙収録。資料的価値は計り知れない。銘文（右）には、カラー図版として収載した面の面裏銘文を翻刻。



思文閣出版既刊図書案内

表示定価は税別

能管の演奏技法と伝承

森田都紀著

室町時代末期から昭和期までの唱歌譜の解説と、近現代の演者の演奏技法の分析を通して、能管(笛)を中心とする能楽の演出の形成過程を歴史的に解明する試み。これまでは制度や演能実態などの社会的側面にばかりが注目されがちであった能研究の歴史に、音楽学の専門家である筆者が、演奏実践の観点から新たな1ページを刻む。

▶A5判・252頁／本体 8,000円(税別) ISBN978-4-7842-1932-2

翁の生成 渡来文化と中世の神々 [オンデマンド版]

金賢旭著

中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとることで、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見だし、さらに日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島のシャーマニズム文化の影響を指摘する。第4回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞受賞

▶A5判・250頁／本体 5,000円(税別) ISBN978-4-7842-7010-1

京舞井上流の誕生

岡田万里子著

近世から近代にいたる流派の歴史を検証し、伝承作品群の成立背景を考証する。堂上・花街文化、そして、能、人形浄瑠璃、歌舞伎といった他の芸能の影響を確認しつつ、その豊饒な母胎—近世後期京都における芸能的世界の解明に挑む。第35回サントリー学芸賞、第9回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞、第46回日本演劇学会河竹賞奨励賞受賞

▶A5判・552頁／本体 9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1672-7

神楽と祭文の中世 変容する信仰のかたち

斎藤英喜・井上隆弘編

「民俗芸能」と呼ばれ、古代以来伝わるものとされる「神楽」。それらの深層を探ると、そこには混沌とした「中世」の信仰のかたちが現れる。この中世の信仰と思想を伝える「祭文」を中心に、中世神楽および関連する陰陽道・密教・アジアの巫俗の世界を読み解く意欲作。

▶A5判・390頁／本体 8,000円(税別) ISBN978-4-7842-1871-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。